

GOD WITH US
Part 11: LATER LETTERS
Message 3 – Pastoral Epistles
Paul’s Final Letter
2 Timothy 1, 2

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第3メッセージ-牧会書簡

パウロの最後の手紙

テモテへの手紙 第二 第1、2章

はじめに

パウロが、第二テモテとして知られている愛に溢れる手紙を記したのは、ローマの獄中でした。二度目の獄中生活で、法廷においての弁護もすでに終わっていました。パウロは、自分の処刑まで間もないことを知っていた様です。冬が近づいており、獄中は孤独で寒く、彼の最も愛する友であり、宣教仲間であったルカだけがパウロの傍にいました。パウロは、テモテに手紙を書き、彼の外套と本（羊皮紙）を持って、直ぐにローマに来るように依頼していますが、テモテに来てほしいという要求以上に、この手紙は、パウロの心が開かれ、最愛の霊的息子に信仰の松明を渡すことが目的でした。パウロは次の様に書いています。「4:7 わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」

(第二テモテ 4 : 7) 。パウロは、天国のイエス様に会いに行

く心構えは整っていましたが、その前に、レースは始まったばかりで、この先、何年も走り続ける必要のある若いテモテの心に勇気を吹き込むことが目的でした。この手紙は、83 節から成り、そのうち少なくとも 54 節は、最後まで終えること、戦うこと、耐え忍ぶこと、真実であることについての重要性が書かれています。これらはパウロの「最後の言葉」であり、今日も私たちにとって力強い励ましとなっています。

新約聖書の中には、使徒パウロの真の情熱を理解することを助けるこれ以上の手紙はありません。この短い書物は、何度も読むことによって、あなたの人生に大きな影響を与えるに違いありません。シャーリーと私は、クリスチャンの旅路の早い段階で、この本に大きな影響を受けました。よく読んで、そのメッセージを心に刻み込んでいただくことをお勧めします。

冒頭の挨拶：1 : 1,2

1:1 神の御旨により、キリスト・イエスにあるいのちの約束によって立てられたキリスト・イエスの使徒パウロから、1:2 愛する子テモテへ。父なる神とわたしたちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とが、あなたにあるように。

(第二テモテ 1 : 1, 2)

「いのちの約束」について、パウロが筆を羊皮紙に置いた瞬間に真っ先に浮かんだことでした。パウロがキリストを世界に宣教したことで、ローマがパウロを処刑しようとしていましたが、永遠のいのちの約束がパウロの心に生きていたので、死刑判決を恐れませんでした。パウロがピリピの信徒に記したように：「**1:21** わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。」（ピリピ 1:21）。この手紙の終わりでも、パウロは自信を持って希望を記します：

4:18 主はわたしを、すべての悪のわざから助け出し、天にある御国に救い入れて下さるであろう。栄光が永遠から永遠にわたって主にあるように、アメン。（第二テモテ 4：18）

死が目前に迫っているときに、死後の世界への信念についての明確な表明をもって手紙を書き始めます。

三つの覚えている事柄：1：3-5

パウロは次の3節で「覚えている」という言葉を3回用いました。テモテについて特定のことを思い出していました。

1:3 わたしは、日夜、祈の中で、絶えずあなたのことを思い出しては、きよい良心をもって先祖以来つかえている神に感謝している。**1:4** わたしは、あなたの涙をおぼえており、あなたに会って喜びで満たされたいと、切に願っている。**1:5** また、あなたがいただいている偽りのない信仰を思い起している。こ

の信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っていると、わたしは確信している。（第二テモテ 1：3－5）

パウロはテモテに会いたがっていましたが、二人は1,000マイル離れていたため、パウロは常に祈りの中にテモテを覚えしました。

離れている人でも、祈りは、いつでも、どこでも、誰とでも繋がる機会を与えてくれます。誰かを思い出さずには、その思い出を祈りに変えましょう。最も差し迫った必要が何であるかを具体的に知らないかもしれません。でも主がすべてをご存じなので、聖書のみ言を祈ったり、彼らの人生や、現在の懸念や、状況の中で、主が働いてくださるように寄り頼むことができます。これは人々のために、私たちに出来る最も力強いことです。人々のために祈りましょう。すべての記憶を祈りに変えましょう。

第二に、パウロは、テモテの涙を思い出しました。パウロとテモテの間には、深い霊的、感情的絆がありました。テモテもエペソ人も、テモテが去ったときに泣きました（使徒 20章）。その涙は、パウロが彼らにとって教師以上の存在であったことを示しています。パウロは、彼らを心から愛し、彼らもそのことを知っていました。パウロは彼らの最愛の霊的な父でした。

第三に、パウロは、テモテの真実な信仰を思い出しました。「真実」という言葉は、「演技でない」ことを意味します。テモテの信仰は偽物ではなく、本物でした。彼の母親と祖母が敬虔で、二人の信仰をテモテに伝達するという重要な役割を果たしました。テモテの母親側に豊か信仰の遺産があり、テモテは3代目でした。父は信仰の人ではなかった様です(使徒16:1)が、それにもかかわらず、この2人の女性は、テモテが幼い頃から、神とのみ言について、テモテに教え始めたに違いありません。幼い子供たちは、スポンジの様に吸収することができます。早すぎることは決してありません(第二テモテ3:15)!

配偶者の理解や協力がなく、一人で子供の信仰を育む努力をしておられる場合は、テモテの母親と祖母、ロイスとユニスのことを心に留め、励まされてください。片親だけ、または両親が信仰の人ではなかった家で育てられた方もおられるでしょう。そのことで、キリストへの真実で深い信仰を育むことを止めないでください。神は、あなたが信仰の中で成長することを助けるために、霊的な父と母、兄弟姉妹をあなたの人生にもたらすことがお出来になる方です。あなたの信仰を強め、あなたの家系におけるターニングポイントになってください。そうすれば、あなたの後続く子孫は、イエス様を信じ、あなたからイエス様と共に歩むことを学び、真実な信仰がいかに見えるかを知ることができます。

備忘：1：6,7

手紙の初めにパウロがテモテに勧告します。

1:6 こういうわけで、あなたに注意したい。わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を、再び燃えたたせなさい。 **1:7** というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。(第二テモテ1：6，7)

使徒パウロがテモテに手を置いたとき、テモテは宣教のためにある種の霊的な賜物を受け取りました(第一テモテ4:14)。初代教会の説明(使徒6:6:13:3)では、これは一般的な慣習でした。この種の儀式的に祈る伝統と人に手を置いて祈る伝統は、今日も続いていますが、これは聖霊によって授けられる霊的な賜物とは特に関係はありません。

私たちがクリスチャンになると、神はご自身の霊を私たちの中に置かれ、その霊と共に「霊的賜物」がもたらされます。(パート10、第8メッセージ：第1コリント12-16は、霊的賜物のトピックに焦点を当てており、霊的賜物の詳細な説明リストで終わります)。霊的な賜物は、神が世でお目的を前進させるために用いられる御霊から与えられた能力です。これらの賜物は、神の働きにおいて強力な道具であり、用いられことによって、あなたに大きな個人的な満しをもたらす賜物です。したがって、すべてのクリスチャンは、神から与えられた霊的な賜物において、2つの選択肢があります。これらの賜物を火が消えようとしていると

ころにくすぶらせるか、燃え立たせて、貧しい世界に熱と光を与えるために用いるか、二つに一つを選択肢です。パウロはこの勧告に励ましを添えます。

1:7 というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。(第二テモテ1:7)

ここの「臆する」という言葉は臆病、または恐れ、怯む(ひるむ)などを意味します。おそらく、テモテは対立を好まない性格をしていたのでしょう。そこでパウロがテモテに言います。「臆病にならず、あなたの賜物を燃え立たせてください。神はあなたが神のために生きるとき、あなたが必要とするものを備えてくださるからです。あなたが弱さに直面したときに超自然的な力を、憎しみに直面したときに愛を、そして混乱に直面したときに規律(健全な精神)をもたらしめます。

恥と思ってはならない：1：8-18

この部分でパウロは、「恥」という言葉を3回用いています。殆どの従者がこのパウロの必要な時に、彼から逃げ出しました。キリストを支持して苦しむことを恐れたからです。イエス様は、弟子たちに、間もなく天国に連れて行かれると言われました。「**1:8** ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」

(使徒1:8)。初期のクリスチャンが直面していた困難の理解を助けるために一部背景を見てみましょう。

ローマは、大火事に見舞われ、街の半分近くが破壊されました。旅行から戻ったネロは、自ら消防隊を率いました。火事が収まった後、クリスチャンが神の裁きの「火」について話していることを口実に、ネロはその火事をクリスチャンのせいにしてしまいました。ローマの歴史家、タキトゥスが次の様に記しています：

「社会から嫌われていたクリスチャンは、ネロに非難され、罰せられました。「クリスチャン」という名前の由来となったキリストは、ティベリウスの治世に総督のポンテオ・ピラトによって罰せられました。しばらくの間管理されていたこの有害な宗教は、元の故郷であるユダヤだけでなく、ローマ全体で再び勃発しました... したがって、まずクリスチャンであると自白する人々が逮捕され、次に彼らの情報の結果として、クリスチャンに関与した多くの人々も、火をつけたという罪のためではなく、人類の憎しみのために逮捕されました。彼らは嘲笑されながら死にました：何人かは野獣の皮で覆われ、次に犬によって引き裂かれました、何人かは十字架につけられました、また何人かは夜を照らすために松明として燃やされました... 最終的に、極度の残酷なシーンの後、共感が沸き上がりました... 男性にとって、彼らの破壊は公共の

福祉のためではなく、ネロの残酷さを満足させるためであると感じました。」

このような背景の中で、パウロの言葉をじっくりと思慮深く読んでください：

1:8 だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすることや、わたしが主の囚人であることを、決して恥ずかしく思っ
てはならない。むしろ、神の力にささえられて、福音のため
に、わたしと苦しみを共にしてほしい。**1:9** 神はわたしたちを
救い、聖なる招きをもって召して下さったのであるが、それ
は、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に
基き、また、永遠の昔にキリスト・イエスにあってわたした
ちに賜わっていた恵み、**1:10** そして今や、わたしたちの救主
キリスト・イエスの出現によって明らかにされた恵みによる
のである。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不
死とを明らかに示されたのである。**1:11** わたしは、この福音
のために立てられて、その宣教者、使徒、教師になっ
た。**1:12** そのためにまた、わたしはこのような苦しみを受け
ているが、それを恥としない。なぜなら、わたしは自分の信
じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだ
ねられているものを、かの日に至るまで守って下さることが
できると、確信しているからである。(第二テモテ1:8-12)

ローマ人への手紙第1章17節の様に、パウロはここで、

キリストの福音を「恥じていない」と大胆に宣言します。イエス様が死を滅ぼし、イエス様を信じる人々に永遠のいのちをもたらして下さったことをパウロは知っていました。パウロは自分が誰を信じていたか、また、死後どこに行くのかを知っていました。

権力や力を利用した脅迫戦略を用いて、人間関係、仕事、友情、立場などを失うことを脅迫し、私たちに黙らせ、後退させ、恥をかかせる様な者は、通常、その戦略に巧みです。したがって、彼らの外見も圧倒的で、自分が失うものが大きくても、イエス・キリストを信じるすべての信者の中に住んでおられる、より強い御力、つまり聖霊様がおられることを思い出す必要があります。私たちが脅迫、恥、結果や死への恐れさえも克服するのを助けることがおできになります。パウロのテモテへの勧告と同様に、私たちに脅迫戦略を用いる人々に対して、私たちの内におられる聖霊様の力が屈することを防ぐことが可能であることを覚えるように、パウロは、私たちにも勧告してくれています。誰が、または何が、あなたに対して脅迫戦略を用いているのでしょうか？パウロのテモテへの言葉は、どの様にあなたを刺激し、教えますか？

「恥とせず」に生きるというテーマに戻りますが、パウロは、ここに真理にしっかりと留まるようにとの忠告を挿入します。これは、パウロが前に福音メッセージの基本的な要素

を復習したばかりであったことから考えられます（パウロが「福音」という言葉を2回用いていることに注意してください、1:9,10）。テモテは、この貴重な福音を守り続ける必要があります。それは地球上で最も価値のあるものだからです！

1:13 あなたは、キリスト・イエスに対する信仰と愛とをもって、わたしから聞いた健全な言葉を模範にしなさい。**1:14** そして、あなたにゆだねられている尊いものを、わたしたちの内に宿っている聖霊によって守りなさい。（第二テモテ 1:13, 14）

「健全な言葉を模範にし。。。あなたにゆだねられている尊いものを、わたしたちの内に宿っている聖霊によって守りなさい。」パウロは、強調のために繰り返しています。福音は、パウロからテモテに渡されました。ここでテモテは、聖霊様の力によって、その尊いものを生涯かけて守るように勧告されました。パウロは言います：「誰にも福音を捻じ曲げさせないでください。誰にも福音を付け加えたり、取り除いたりさせないでください。誰にも、この神聖な尊い宝を盗ませないでください。安全に保持するように！しっかり守るように！

福音は守らなければならない「宝」だと思われませんか？あなたにとって尊いですか？福音のみ言を自分の心に受けられたなら、その人の中に、神聖な尊い宝を保持していること

をご存じですか？福音とは、神の御子、キリスト・イエスが、私たち（人類）の一人として私たちと関係して下さるために、この世に来られました。人としても神聖で非難されるところのないキリストは、全人類の罪のための永遠の犠牲として、ローマ人とユダヤ人の手と、父の御心によって死んでくださいました。これを聞いて信じるすべての人に、神は罪の赦しと永遠のいのちをお与えになります。この福音の尊い宝を神があなたに分かち合っしてほしいと願っておられる人が誰かを示していただくように祈り尋ねましょう。一人でも多くの人々がキリストを信じるように導き、イエス様が今も永遠に与えてくださる、赦しと神との個人的な関係の内に生きることほど大きな喜びは、この世に存在しません！あなたはメッセージ以上のものを保持しておられるのです。「福音」です。そしてそれは「すべて信じる者に、救を得させる神の力である。」（ローマ 1:16）。

パウロの投獄と裁判の過程で、福音を恥じとし、パウロを見捨てた人々がいました。同時に、キリストとその僕パウロを恥じないままでいた一人の男がいました。

1:15 あなたの知っているように、アジアにいる者たちは、皆わたしから離れて行った。その中には、フゲロとヘルモゲネもいる。**1:16** どうか、主が、オネシポロの家にあわれみをたれて下さるように。彼はたびたび、わたしを慰めてくれ、ま

たわたしの鎖を恥とも思わないで、1:17 ローマに着いた時には、熱心にわたしを捜しまわった末、尋ね出してくれたのである。1:18 どうか、主がかの日に、あわれみを彼に賜わるように。――彼がエペソで、どれほどわたしに仕えてくれたかは、だれよりもあなたがよく知っている。

(第二テモテ 1 : 15 - 18)

オネシポロは、主要な役割を果たした聖書の中ではマイナーな登場人物の 1 人です (ここと 4 章 18 節でのみ言及されています)。彼は、ローマに投獄されているパウロを勇敢に探し求めました (パウロに関わることによる罪の危険を冒して)、他に誰もそうすることができなかつたときに安堵をもたらしました。危険に直面したその様な勇氣は、オネシポロが自身のいのちも安全も運命も、いかにイエス様に信頼して委ねていたかを明らかにしています。

イエス様が言われたことを覚えましょう。「8:38 邪悪で罪深いこの時代にあつて、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」(マルコ 8 : 38)。イエス様はこの世に来られ、私たちのために屈辱的な公開処刑による死を遂げられました。イエス様の従者であるということ特定することによって、イエス様の救いを必要としている世とイエス様の愛を分かち合うために必要な屈辱

に苦しむようにも招いておられます。潜在的な軽蔑、嘲笑、恥、拒絶に直面する中、イエス様に属する者として特定するリスクを冒すことができますか？

忠実でありなさい 2 : 1-26

第 2 章では、テモテの心に永遠に刻む八つの描写をパウロは提供しています。これらはすべて、神の忠実な僕の資質を描写しています。

1. 忠実な執事

2:1 そこで、わたしの子よ。あなたはキリスト・イエスにある恵みによって、強くなりなさい。2:2 そして、あなたが多くの証人の前でわたしから聞いたことを、さらにほかの者たちにも教えることのできるような忠実な人々に、ゆだねなさい。

(第二テモテ 2 : 1, 2)

神は忠実な男女を用いて、この地球において、神の御国の働きを前進させられます。したがって、すべては、人から人へのメッセージの忠実な伝達にかかっています。ある人がキリストを救い主として受け入れた後、キリストの教えを受け入れ、体現し、また他の人の人生に注ぎ込みます。これが、神がキリスト教を世界で生かし続け、前進させるために設計された方法です。つまり、霊的再生の過程を通じて、人から

人へと進みます。これには、私たち一人一人が、教えられてきた信仰と真理の忠実な執事である必要があります。パウロからテモテへ、テモテから他の忠実な信者たちへと伝達され続けます。

2. 良い兵士

2:3 キリスト・イエスの良い兵卒として、わたしと苦しみを共にしてほしい。**2:4** 兵役に服している者は、日常生活の事に煩わされてはいない。ただ、兵を募った司令官を喜ばせようと努める。(第二テモテ 2 : 3, 4)

テモテは、パウロとの宣教を共にした際、苦しみました。パウロはテモテに「現役の良い兵士として苦しみ」続けるように勧告します。現役の優秀な兵士は、苦しむことをいとわない。それが兵士としての生活の本質です。優秀な兵士も集中し続ける必要があります。兵士でありながら、同時に、日常の民間問題に縛られることはできません。兵士として、いくつかの選択をしなければなりません。主な選択は、あなたの指揮官が与えた任務の周りに、あなたの人生を優先することです。興味が分割された状態では、献身的な兵士になることはできません。

献身的な兵士でありながら(義務)、生活において他の通常義務を果たすためのバランスをとることが重要です。あなた

の義務は、仕事をであったり、教えることであったり、子育てであったり、学校に通うことであったりします。これらはすべて、イエス様の従者として重要な義務です。それでも、これらの役割を「占める」間、まさにその状況において、イエス様に仕えることが義務以上に重要です。学校に行ったり、子育てしたり、年老いた両親の世話をしたりしながらも、指揮官(イエス様)の使命を果たす「良い兵士」になることが可能です。良い兵士であることは視点の問題です。そこで神に仕えるために神から割り当てられた任務として、あらゆる機会、あらゆる場所、あらゆる役割を見ることです。

3. 規則に従う競技選手

2:5 また、競技をするにしても、規定に従って競技をしなければ、栄冠は得られない。(第二テモテ 2 : 5)

パウロは、ゲームで敗北し、報いを失い、ルカだけと刑務所に座って、処刑を待っていたかの様に見えます。しかし、神の見方からすると、パウロは、自分の人生に対する神の召しに従って、神の規則に従って、忠実に走り切りました。彼は今、イエス様から授けていただく「王冠」(テモニ 4:8)と「よくやった。良い忠実なしもべ…」(マタイ 25:21)というイエス様の言葉を待ち望むのみとなりました。

競技選手は「規定に従って」競争します。ローマの競技選手は、非常に厳しい規定に従って競争しました。イベントに至るまでのトレーニング期間中でさえも同様でした。彼らには、独自の古代版の規定書がありました。途中で、競技の規則に違反していることが判明した場合は失格となりました。パウロはテモテに、クリスチャン生活におけるレース、特に神の召しは、その様なものであると教えたのです。神は、私たちのレースを導くための手引きを私たちに与えてください。指示、ガイドライン、禁止事項、許可事項を与えてくださっており、神のみ言に記されている、ガイドラインに従って、私たちがレースを走ることを求めておられます。(参照：第一コリント 9：24-27：パウによるレースと報酬の類似。報酬を獲得する資格を失わないように、規定に従って走るについて話しています。)

4. 労苦した農夫

2:6 労苦をする農夫が、だれよりも先に、生産物の分配にあずかるべきである。 2:7 わたしの言うことを、よく考えてみなさい。主は、それを十分に理解する力をあなたに賜わらう。 (第二テモテ 2：6，7)

昔も今も、農夫は収穫をもたらす、報酬を得るためにそれは一生懸命働かなければなりません。放置した畑には、雑草が氾濫します。牧師や宣教師たちのための宣教もまた大変な仕事です。地域の教会に忠実に参加することも忍耐力を必要

とします。農民は一生懸命働いている間、忍耐を要します。地に雨が降ることによって、作物が成長するのを耐え忍んで待つ必要があります。これは、祈りと信仰にも関連し、ヤコブ第 5 章 7 節に触れています。イエス様は、弟子たちを遣わされたとき、「働き人がその食物を得るのは当然である。」(マタイ 10：10) ので、「10:10 旅行のための袋も、二枚の下着も、くつも、つえも」何も持って行かないようにと指示されました。パウロは宣教中に個人的な支援や賃金を受け取らないことを選択しましたが、若い牧師として、資源の分け前を受け取ることを疑ったり躊躇したりしてはならないことをテモテに思い出させています。宣教に携わる人々は「霊的な種」を蒔き、「物質的な収穫」を受けべきです(1 コリ 9:11)。忠実な献金を通じて牧師やスタッフを支援することは、地域教会の信者たちの責任です。パウロはまた、主に仕えるために労苦して働く人々にもたらされる天の報酬について話しました。

4:8 今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。 (第二テモテ 4：8)

「労苦した農夫」の教えには、生活に適用できる教訓が多くあります。労苦、忍耐、信仰、支援、忠実な献金、将来の

天における報酬等、あなたはどこに携わっておられますか？
勤勉な宣教スタッフを忠実に支援しておられるでしょうか？
地域教会のからだの忠実な支援無しには働きを続けることは
できません。

5. 投獄された犯罪者

2:8 ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思いなさい。これがわたしの福音である。**2:9** この福音のために、わたしは悪者のように苦しめられ、ついに鎖につながれるに至った。しかし、神の言はつながれてはいない。**2:10** それだから、わたしは選ばれた人たちのために、いっさいのことを耐え忍ぶのである。それは、彼らもキリスト・イエスによる救を受け、また、それと共に永遠の栄光を受けるためである。(第二テモテ2:8-10)

パウロはテモテに、イエス・キリストの十字架の御業を覚え、人類のために買い取ってくださった永遠の救いをイエス様がどれほど人々に手に入れてもらいと願っておられるかを覚えておくよう勧告します。パウロが犯罪者扱いを受けて、投獄されることをいとわなかったのはなぜでしょうか？それは、パウロの投獄によって、より多くの人々がイエス・キリストの救いの賜物を受けることを可能にするからです。パウロは、キリストの救いの愛をまだ知らない人々に広めるため

に、必要であるなら、苦難に耐えることもいとわないようにテモテに勧告しました。

2:11 次の言葉は確実である。

「もしわたしたちが、彼と共に死んだなら、
また彼と共に生きるであろう。

2:12 もし耐え忍ぶなら、
彼と共に支配者となるであろう。

もし彼を否むなら、
彼もわたしたちを否むであろう。

2:13 たとい、わたしたちは不真実であっても、
彼は常に真実である。

彼は自分を偽ることが、できないのである」。

(第二テモテ2:11-13)

初代のクリスチャンは、独自の聖書を所有していなかった
ので、詩的な対称が用いられた、この様な信条や告白文の声明は、人々が重要な考えを覚えるのに役立ちました。この賛美歌／詩は、信念の表明以上のものです。これは、耐え忍び、強くあり、針路を維持するという忠誠の声明でもあります。針路を最後まで力強く保つことには大きな報酬が伴います。たとえ私たちがイエス様に真実でなくても、イエス様は私たちに真実であり続けられます。イエス様の私たちへのお約束は保証されています。しかし、私たちがイエス様を否定

するならば、イエス様も私たちを否定されるでしょう。これは2つのうち1つの方法によって理解することができます。

1) イエス様は、私たちの天国における、特定の報酬、永続的な迫害に対する報酬を否定されます。2) イエス様が私たちの救い主として知ることを否定するなら、イエス様も私たちを彼の子として知ることを否定されます（これは、聖霊様が実際に私たちの内に内在されていなかったことの証拠です。参照：第1ヨハネ2：19,20）。宗教的であったので、イエス様を「知っている」と思い込んでいた人々に対して、イエス様は、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』（マタイ7：21-23）。と宣言されました。しかし、イエス様は、私たちの心をお見通しです。

「私たちが不真実であっても、イエス様は真実であり続けられる」と宣言することによってパウロが告白を終えているのは、神は「自分を偽ることが、できない」お方であるからです。もし、イエス様が聖霊様によって信者の中に住んでおられ、信者が不真実であるならば、イエス様は信者の内に住まわせた聖霊様そのものを否定されることはありません。イエス様の真実さは、私たちの真実さに依存したり、それに基づいたりするものではありません。イエス様の真実な愛は、真の信者がイエス様にも真実になりたいと思う様に深く動機づけるものです！

6. 承認された働き人

2:14 あなたは、これらのことを彼らに思い出させて、なんの益もなく、聞いている人々を破滅におとし入れるだけである言葉の争いをしないように、神のみまえでおごそかに命じなさい。2:15 あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。2:16 俗悪なむだ話を避けなさい。それによって人々は、ますます不信心に落ちていき、2:17 彼らの言葉は、がんのように腐れひろがるであろう。その中にはヒメナオとピレトとがいる。2:18 彼らは真理からはずれ、復活はすでに済んでしまったと言ひ、そして、ある人々の信仰をくつがえしている。（第二テモテ2：14－18）

パウロはテモテのことを「真理のことばを正しく教える、神によって承認された働き人」と呼んでいます。「正しく教える」という言葉は、「まっすぐな道を引く」という意味を含みます。神のみ言を研究するには、勤勉な農民の様に、手まめな勤勉さが必要です。それは、ある地域にまっすぐな道を引いたり、畑にまっすぐな溝を耕したりしたギリシャ人労働者や、まっすぐな配管を敷設した建設業者に用いられた言葉です。聞いている人が何を信じ、いかに生きるべきかをはっきりと知ることができるように、教える人は、神のみ言を明確、正確、率直な方法で学び、教えるということをこの言葉は意味しています。

神のみ言を教える人は、まず自分の人生に真理を適用しなければなりません。ヤコブが「わたしたち教師が、他の人たちよりも、もっときびしいさばきを受けることが、よくわかっているからである。」（ヤコブ3:1）と教えていることを思い出させました。パウロはテモテに、ヤコブの訓戒に注意を向けさせ、口に気を付けるように勧めます。ヤコブは、聞き手、特に教師たちに彼らの舌に気を付けること警告しています（ヤコブ3:2-12）。

パウロは、聖書を正しく教えていない、口に注意していない教師たちを名指ししています。ヒメナオとピレトは「真実から逸脱しました」。その結果、人々は、ますます不敬虔に深入りしました。彼らの教えは霊的健康を広めるのではなく、むしろ、「癌のように腐れひろがり」、人々に害を及ぼしていました。

7. 尊い器

これは、パウロが生き物でない、つまり家庭にある器を用いた描写です。彼は、尊い目的のために用いられる器と、卑しい目的のために用いられる器があると指摘します。

2:20 大きな家には、金や銀の器ばかりではなく、木や土の器もあり、そして、あるものは尊いことに用いられ、あるものは卑しいことに用いられる。**2:21** もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた器となっ

て、主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる。**2:22** そこで、あなたは若い時の情欲を避けなさい。そして、きよい心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなさい。**2:23** 愚かで無知な論議をやめなさい。それは、あなたが知っているとおりに、ただ争いに終るだけである。（第二テモテ2:20-23）

ここにいくつかのキーワードがあります：清め、避け、やめる。自分の人生を汚染し、霊的な力を弱める可能性のあるものから離れるという明確な着想です。一般的なローマの家には、特別な器とそれほど特別ではない器がありました。たとえば、足洗い用の容器は「それほど尊くない」器でした。金の杯は「尊い」器でした。純粋な心と清い口を追求すればするほど、私たちはキリストにとって、より有用な器となります。パウロはテモテに、「神の家」のどんな種類の器になりたいかを選ぶよう勧めています。彼が「清い生活」を追求するならば、すべての良い働きを準備されている主に役立つ尊い器になるでしょう。

パウロはテモテに、純粋な心で主を呼び求め、義と信仰と愛と平和の生活を追求している人々を選んで、一緒に過ごすようにと忠告しています。一人で歩むのは困難です。私たちは、キリストに従うために、お互いに拍車をかけるためにお互いが必要です。

「奉献」という言葉は、厳粛な行為、または決定を通じて特別な目的に専念すること。これは、神のすべての子がいつかとることができる献身的な行為です。これは、単独で行うことも、友人や証人と一緒に行うことも可能です。人生を神に奉献したら、神のために生きる旅路には浮き沈みがあることを忘れないでください。特にあなたが弱っていたり、落胆したり、心を失ったりしたときは、このコミットメントを頻繁に更新する必要があります。

8. 謙虚な主の僕

8つの描写の最後は、パウロのお気に入りの称号の1つである主の僕です。

2:24 主の僕たる者は争ってはならない。だれに対しても親切であって、よく教え、よく忍び、**2:25** 反対する者を柔和な心で教え導くべきである。おそらく神は、彼らに悔改めの心を与えて、真理を知らせ、**2:26** 一度は悪魔に捕えられてその欲するままになっていても、目ざめて彼のわなからのがれさせて下さるであろう。(第二テモテ 2 : 24 - 26)

ローマの文化では、僕とは、主人に仕えるために喜んで命をも捧げる人を意味しました。したがって、主の僕は、神の御心によって仕えなければなりません。この文脈において、パウロは、主の僕の教える役割を強調しています。主の僕は

「改宗者を勝ち取る」ために決して強引な戦術を用いてはいけません。人々が嘘やライフスタイルや宗教制度などを通して、悪魔のわなに捕らえられていることを私たちが理解するとき、私たちに耳を傾ける前に、神の御力によって、彼らが邪悪な者の支配から解放される必要があります。そのためには、教える側の優しさと忍耐が求められます。祈り、忍耐、優しさは、主の僕の資質です。「私たちがその感覚に達するには...」何が必要でしょうか？たいいていの場合、多くのことを必要とします。イエス様が放蕩息子について教えられたたとえ話を読んでください。放蕩息子は、すべてを失い、養豚場で働きました(ルカ 15章)。私たちの罪の性質は頑固で、頻繁に、「私は最善を知っている」生き方を屈したり、諦めたりすることができないのが現実です。

オズワルド・チェンバーズ著書の「いと高き方のもとに」という本の中で、権利を放棄し、主のための意欲的な僕になることについて次の様に記しています：「私の独立の崩壊が訪れたでしょうか？他のすべては宗教的まやかしです。決定づけるポイントは、諦めるかどうかにかかります。私はイエス・キリストに降伏し、いかに破滅が起こるかについて何の条件も課しませんか？キリスト教への情熱は、私自身の権利を故意に放棄し、イエス・キリストの僕になることから来ています(オズワルド・チェンバーズ、いと高き方のもとに)。

ディスカッションの質問

1. パウロやテモテや他の信者たちが強い迫害と圧力を受け
る中、生きた1世紀の文脈で、イエス様のために生きるとい
うチャレンジについて考えましょう。彼らの信仰はどのよう
にあなたを励ましますか？
2. 忠実な僕の8つの描写のうち、あなたの現在の状況に最
もよく語り掛けるのはどれですか？なぜですか？
3. ある世代から次の世代への信仰の引継ぎについて話しあ
いましょう（第二テモテ1：3-5）。あなたは、どの様に次世
代に引き継がせようとしておられますか？
4. パウロのテモテへの勧告は、宣教者の責任と困難を理解
するのにどのように役立ちましたか。彼らを励ますためにあ
なたは何ができますか？